

公立図書館における相互貸借借受リストの分析：

江戸川区立図書館 1 年分の事例から

吉井 潤

都留文科大学非常勤講師

jun-yoshii@tsuru.ac.jp

1. 研究の背景

多くの公立図書館では、自治体内に所蔵がない資料を利用者が求めた場合、購入するか他自治体の所蔵を調べ借用依頼を行い可能だったら借りて利用者に提供する。公立図書館では、都道府県立図書館から市区町村立図書館へ資料を貸出することを協力貸出、市区町村立図書館間の貸借を相互貸借と言うことが多い。

全国公共図書館協議会が調査公表した『2010年度（平成 22 年度）公立図書館における協力貸出・相互貸借と他機関との連携に関する実態調査報告書』によると、市区町村立図書館が相互貸借を依頼する主な理由は①絶版・品切れ等により購入できないため 71.9%②資料費が少ないため 59.2%③自館の資料収集方針・資料選択基準に適合しないため 37.5%④協力貸出・相互貸借のほうが、購入するよりも提供までに時間がかからないため 22.8%となっている¹⁾。自館で利用者の要求を満たすためにすべての資料を収集し保管することはできないため相互貸借は、重要である。

2. 先行研究

大学図書館では、相互貸借について研究が行われている。諏訪らは、高知学園短期大学図書館で内部資料と保存している統計をもとに依頼・受付件数などを比較した。結果、文献複写依頼件数は 2012 年以降減少傾向にあり、同じ雑誌に集中することなく年度によって上位が入れ替わることもあった。教員からの依頼は減少傾向にあり、学生の依頼が全体の過半数を占めている傾向がみられた。受付件数は増加傾向にあることがわかった²⁾。

西は、東京医科大学図書館で内部資料と保存している統計や日本医学図書館協会統計を主に用い分析した。受付は 2003 年度には 20,000 件

を超えピークを迎えたが、以後減少傾向が続き 2009 年度には 15,185 件となった。これは、電子ジャーナルの普及が考えられると考察している。2000 年度と 2009 年度の雑誌の受付件数を比較したところ、洋雑誌は 4,468 件から 1,801 件まで減少していたが、和雑誌は 2642 件から 4,968 件に増加していることを示した³⁾。

小島は、日本医師会医学図書館の依頼の傾向に注目した。2007 年度から 2010 年度の複写依頼を分析し、電子化、オープン・アクセス化されていない文献の申し込みが増加傾向にあり、インターネット上の文献利用が要因と考えられる複写件数の減少がみられることがわかった⁴⁾。

公立図書館では、前田が千葉県の相互協力について、県立図書館から市町村図書館・公民館図書室等読書施設への貸出は横ばいである一方、高等学校への貸出が増加しており、高等学校図書館支援サービスが定着し、今後も利用の伸長が予想できるとしている⁵⁾。

先行研究では、主に大学図書館の傾向を知ることではできた。一方、公立図書館では、研究や業務の具体的な流れ、分析が少ないのが現状である。考えられる要因としては、先述の先行研究のように内部資料を主に使うことから、図書館や所管部署に依頼をしなければならない。依頼の際に、得たい情報と先方が提供できる情報との差も考えられる。

3. 研究の目的

本研究の目的は、公立図書館ではどのような資料を相互貸借で仮受しているのかを明示するための研究の手がかりとして江戸川区立図書館の 1 年分のリストを一例として明らかにする。

江戸川区は、東京 23 区の東部に位置し、人口は、691,514 人である。図書館は、12 館あり、全館ネットワークで結ばれ、葛西図書館所蔵本

を篠崎図書館で受け取ることが可能である。2018年3月31日時点で蔵書数は、全館で、1,536,265冊(23区中6位)、貸出点数は、全館で、5,431,940冊(23区中4位)⁶⁾である。2007年から2017年の相互貸借件数は、借用より貸出が上回っていることが続いている⁷⁾。全館合わせた2018年度の資料購入費は、197,261,000円である⁸⁾。また、図書館運営は、中央図書館を含めた全館指定管理者制度を導入し、所管部署は、教育委員会ではなく、文化共育部文化課が補助執行という形をとっている。文化課には、図書館勤務経験者、非常勤として図書館専門員が1名在籍している。さらに、江戸川区は、2005年に「江戸川区立図書館資料収集方針と選定基準」を策定し、「資料別収集方針」「資料別選定基準」だけではなく、「資料利用・保存年限基準」「除籍基準」「資料リサイクル基準」についても明記されている。

4. 研究方法

データ分析とインタビュー調査を行った。データ分析は、2018年4月1日から2019年3月31日までの江戸川区立図書館全館(12館)分の相互貸借借受リストと中央図書館で受付けたリクエスト用紙を処理する際に作成した簡易書誌データを用いた(申込者の個人情報の記載はない)。この2つを所管部署である江戸川区文化共育部文化課に2019年7月1日に提供の依頼を行い8月13日受け取った。江戸川区から他自治体に貸した資料リストは抽出できないことから今回は借受のみとなった。合わせて、リクエストの受付件数は集約しているわけではなく、データも各館の管理であり、中央図書館のみ現存していた。

相互貸借借受リストに掲載されている資料は合計5,923冊だった。図書館別の内訳は表1のとおりである。資料1冊当たりのデータ項目は、ISBN、書名、叢書名、著者名、出版社、受付日、依頼日、到着予定日、返送日、借受元コード、提供館だった。江戸川区が採用している書誌データが図書館流通センターが作成しているTRC MARCだったことから、分析に必要な分類、別置、価格、出版年、ペル、星の数、利用対象を取得するためにTRC MARCを使用した。なお、TRC MARCは、日本の公共図書館

3,273館のうち2,901館(88.6%)が採用している。中央図書館で受付けたリクエスト用紙を処理する際に作成した簡易書誌データに掲載されている資料は、1,385件で、1点ごとに受付日、書名、出版年、TRC MARC Noが記載されていた。インタビュー調査は、データを受け取った際に、江戸川区文化共育部図書館専門員、中央図書館の蔵書構築と相互貸借担当に行った。

表1 図書館別借受冊数内訳

図書館名	内訳(冊)
中央	985
小岩	827
松江	363
小松川	569
東部	452
葛西	667
西葛西	1,025
東葛西	390
篠崎	619
篠崎子ども	26
鹿骨コミュニティ	0
清新町コミュニティ	0
合計	5,923

5. 調査結果

5.1 相互貸借の流れ

東京都の公立図書館をそれぞれブロックごとにわけており、江戸川区は第5ブロックに属している。借用する優先順番は、①第5ブロック内②23区③都立図書館④多摩地区⑤国会図書館⑥公共図書館以外の図書館、東京都内以外の公共図書館となっている。毎週、都立便が運行しており、江戸川区は木曜日に依頼した資料が中央図書館に到着し翌日、各館に運ばれる。

5.2 借用資料の傾向

5.2.1 ブロック別内訳

ブロック別の借用傾向をみると、第5ブロックからは3,321冊(56.1%)と最も多く、内訳をみると、足立区からの借用が多かった(表2)。都立中央図書館からの借用は、260冊(4.4%)、国会図書館は5冊(0.1%)だった。両館の件数が少ない理由は、利用者に直接行ってもらった方が1、2週間待つより早く資料を閲覧できることを案内しているからである。

表2 第5ブロック借用内訳

自治体名	冊数	
	(冊)	(%)
足立	1,314	39.6
葛飾	717	21.6
墨田	395	11.9
江東	895	26.9
江戸川	-	-
合計	3,321	100.0

5.2.2 分類別借用内訳

全体の傾向では、9類文学が33.2%と最も多く、3類社会科学(14.3%)、1類哲学(10.6%)と続いている。絵本(1.2%)と雑誌(5.6%)の借用は少ない傾向にある。児童図書は少なく一般図書の依頼が多い。文庫は1,318冊、図書全体の23.6%だった。9類文学のうちライトノベルが396冊(20.1%)と多い理由は、図書館専門員によると2005年の東葛西図書館の開館時にある程度揃えていたが、回転率が悪く特定の利用者が一定期間借りているだけだったことから現在は積極的に購入していないためである。

表3 分類別借用内訳

分類	一般図書 (冊)	児童図書 (冊)	合計	
			(冊)	(%)
0類 総記	99	11	110	1.9
1類 哲学	620	9	629	10.6
2類 歴史	258	21	279	4.7
3類 社会科学	840	8	848	14.3
4類 自然科学	412	13	425	7.2
5類 技術	408	9	417	7.0
6類 産業	146	4	150	2.5
7類 芸術	558	10	568	9.6
8類 言語	126	2	128	2.2
9類 文学	1,854	113	1,967	33.2
絵本	0	70	70	1.2
雑誌	332	0	332	5.6
合計	5,653	270	5,923	100.0

5.2.3 出版年の内訳

雑誌を除いた図書のみについて出版年を10年ごと区切って整理したものが表4である。戦前や戦後などの古い図書を借用しているが、全

体としては最近の図書が多い傾向にある。

表4 出版年の内訳

年代 (年)	冊数	
	(冊)	(%)
1930～	1	0.0
1940～	2	0.0
1950～	12	0.2
1960～	37	0.7
1970～	93	1.7
1980～	302	5.4
1990～	545	9.7
2000～	1,010	18.1
2010～	3,589	64.2
合計	5,591	100.0

5.2.4 平均価格と高額な資料

雑誌を除いた図書の平均価格は1,582円だった。借用した図書の中で高額だった上位10位は、表5である。最も高いものは、都立中央図書館が提供した実務家向けの図書『UV・EB硬化技術の最新応用展開』の70,000円である。

表5 高額図書の借用

順位	価格	書名
1	70,000	UV・EB硬化技術の最新応用展開
2	36,000	内部監査実務全書 第4版
3	33,000	村野藤吾選集 美術・オフィス
4	28,000	魔術師リンダ・ラリーの短期売買入門
5	26,000	電力工学ハンドブック
5	26,000	アンテナ・無線ハンドブック
7	24,000	菊池寛全集 補巻第5
8	21,359	日本大文典
9	21,333	ユーゴー全集3
10	20,000	DSM-5精神疾患の診断・統計マニュアル
10	20,000	復元・江戸情報地図

5.2.5 新刊急行ベル・星の数・利用対象

新刊急行ベルは、発売後入手が困難と予想される書籍を図書館流通センターが一定数買い切り申し込んだ図書館に自動的に届けるシステムである。ベルに選定された図書は合計19冊(0.7%)、出版年を10年ごとに区切って整理す

ると、2010年以降は0冊であることがわかった。

星の数は、お薦め図書に3つまで付与しているものであり、星が付いている図書の合計は281冊(5.0%)と少ない傾向にあった。

利用対象のうち、研究者、大学および大学院生、医療従事者、実務家(特定の職業)、教員、資格・問題集を合わせると、合計222冊(4.0%)だった。

5.3 中央図書館のリクエスト用紙受付

中央図書館で受付たリクエスト用紙(1,385冊)のうち、相互貸借で対応したのは985冊(71.1%)と多い傾向がみられた。リクエストを出版年ごとに整理すると2010年から2019年までの資料が1,022冊(73.8%)、表6は1年ごとに示したものである。調査対象年に出版された資料のリクエストは580冊(41.9%)と多い。

表6 出版年別リクエスト件数

出版年	リクエスト	
	(件)	(%)
2010	28	2.7
2011	32	3.1
2012	28	2.7
2013	26	2.5
2014	43	4.2
2015	46	4.5
2016	46	4.5
2017	122	11.9
2018	539	52.7
2019	112	11.0
合計	1,022	100.0

6. 考察

各館で行っている相互貸借の借用は、江戸川区の各種基準や作成した資料収集計画を基に蔵書構成を崩さないことを意識していることが考えられる。『2010年度(平成22年度)公立図書館における協力貸出・相互貸借と他機関との連携に関する実態調査報告書』に当てはめると②「自館の資料収集方針・資料選択基準に適合しないため」と言える。ベルや星が付与されている資料の借用が少なかったことから、日常の選書で購入している可能性がある。

7. 今後の課題

本研究は、江戸川区立図書館を対象に行ったものであり、結果の一般化には、多くの他自治体の相互貸借のリストを分析することが必要となる。今後、一層の研究が望まれる。また、同一人物が複数回にわたって類書やシリーズを依頼している可能性があることから研究の限界のひとつでもある。

謝辞

本研究は、1年分の相互貸借借受入リストを提供頂いた、江戸川区文化共育部文化課、図書館専門員、江戸川区立中央図書館とTRC MARCを利用させていただいた図書館流通センターのご協力と厚意により実施することができました。この場を借りて、心よりお礼申し上げます。

引用文献

- (1) 全国公共図書館協議会『2010年度(平成22年度)公立図書館における協力貸出・相互貸借と他機関との連携に関する実態調査報告書』2011,p.1-79.
- (2) 諏訪有香ほか「高知学園短期大学図書館における図書館間相互貸借(ILL)の傾向」『短期大学図書館研究』No.38,2018,p.23-29.
- (3) 西さやか「東京医科大学図書館相互貸借統計分析よりみた相互貸借状況の歴史的变化」『医学図書館』vol.58,no.2,2011,p.119-123.
- (4) 小島恵美子「日本医師会医学図書館のILL: 依頼館からの視点」『情報の科学と技術』vol.61,no10,2011,p.410-415.
- (5) 前田竜一「千葉県の相互協力について:相互貸借の沿革と現状」『みんなの図書館』vol.504,2019,p.27-36.
- (6) 日本図書館協会図書館調査事業委員会編『日本の図書館 統計と名簿2018』日本図書館協会,2019,p.509.
- (7) 日本図書館協会図書館調査事業委員会編『日本の図書館 統計と名簿』日本図書館協会を2008年から2018年を参照
- (8) 江戸川区立中央図書館編『江戸川区図書館事業概要 図書館のしおり 平成30年度』江戸川区立中央図書館,2019,p.1-19.